2015年10月14日配信

各　位

10月14日のわかやま新報に国政レポートが載りました。

いつも大変お世話になっております。国政レポートが“わかやま新報”に掲載されました。
お忙しいところ恐縮ですが、ご一読頂けると幸甚でございます。

国会議員国政レポート

「がんばってます」

芽生えてきた観光の可能性

国体を契機に故郷をより良く

自民党
門　博文
衆院議員

去る9月27日に通常国会が終了いたしました。今回の国会は会期を95日間延長し戦後最長となり、特に会期末には安保法制の成立に向け与野党の攻防が厳しいものとなりました。皆さまもマスコミを通じご覧になったと思いますが、国会周辺もデモ隊や警備にあたる機動隊などで物々しい雰囲気に包まれていました。私たち自民党は現在の日本の周辺状況の変化や世界で日本が求められている立場等を鑑み、責任と自信を持ってこの法律の成立に取り組んだところです。この問題は日常の生活とは少し離れた実感の湧きにくいテーマかも知れませんが、そのため「分かりにくい」や「難しい」等のお声もたくさん頂いております。これから も丁寧に説明しさらなる理解を得てまいりたいと思います。しかしただ一つ申し上げておきたいのは、日常と離れたテーマであるものの本当は日常に最も密接したテーマであるということです。「平和」とは遠い所にあるものではなく日々の暮らしが平凡に送れることが「平和」そのものであります。最近テレビなどで報道されるシリアの難民の状況また各地で繰り返される爆弾テロなど。あのような環境に置かれている人々が普通に学校や会社に通ったり家族や友人とゆっくりと食事を楽しむ余裕も安心もないことは火を見るより明らかです。平和を守るための法律、平和を守るための行動。意と感謝の気持ちを表しま す。また24日からは障害者スポーツ大会も予定されており、共感を得てもらえるようこれからも努めてまいりたいと思います。

そして問題はその後。私たちは「国体のために」「国も…」ではなくあの国体を契機に和歌山は変わった、良くなったといえる故郷にしていかなければなりません。いろいろな施設を地域の振興のために関係する2つの動きがあります。一つは外国人旅行客を市内の観光バスを使って関空から誘致する事業が始まりました。「地方創生」として私が提案した事業です。先月9月20日、約800人のお客さまを乗せ入港しました。一晩、港に停泊し乗客は県内各地に観光に出られました。入港・出港とも尾花市長が先頭に立って熱烈歓迎をされ、乗船されていた郵船クルーズの社長さまも大変感激をされておられました。今回は日本人のお客さまでしたが今、日本のお客さまがぶらくり丁を中心に散策、買い物をされました。これからこの制度を活用したツアーがアジアを中心とした各地から次々実行される予定です。中心市街地の活性化や和歌山の観光の可能性をどんどん広げられると確信しています。そして実績をもとに来年度もより多くの予算の獲得したいと思います。

2つ目はクルーズ船「飛鳥Ⅱ」の和歌山港への寄港です。

そんな中、和歌山市で観光に関係する2つの動きがありました。一つは外国人旅行客を市内の観光バスを使って関空から誘致する事業が始まりました。「地方創生」として私が提案した事業です。先月9月20日、約800人のお客さまを乗せ入港しました。一晩、港に停泊し乗客は県内各地に観光に出られました。入港・出港とも尾花市長が先頭に立って熱烈歓迎をされ、乗船されていた郵船クルーズの社長さまも大変感激をされておられました。今回は日本人のお客さまでしたが今、日本は海外からのお客さまを中心に「クルーズ100万人（年間）時代」を目指す政策を推進しています。和歌山港もそのお客さまがぶらくり丁を中心に散策、買い物をされました。これからこの制度を活用したツアーがアジアを中心とした各地から次々実行される予定です。中心市街地の活性化や和歌山の観光の可能性をどんどん広げられると確信しています。そして実績をもとに来年度もより多くの予算の獲得したいと思います。

2つ目はクルーズ船「飛鳥Ⅱ」の和歌山港への寄港です。